

を認めた。

6. TSH の bioassay の方法を検討し, Greenspan の初生雛心内 1 回投与法が, 簡単で精度の高いことを確認し, この方法によつて測定した成績についても発表する豫定である。

74. 婦人月経周期と甲状腺 I^{131} -攝取率

(慶大) *坂倉啓夫, 鈴木文司

内分泌腺の相互関係として古くから性腺と甲状腺の関係がとりあげられて来た。月経周期と甲状腺機能との関係については従来種々の報告を見るが未だに定説がない。また月経異常の治療に, 従来甲状腺製剤が好んで用いられて来たが, その投与形態はただ経験に従つてのもので, 盲目的なものが多くその効果について疑念をいだくものや, 危険であるとさえ極言するものもある。私は I^{131} 攝取率測定により甲状腺の周期性変化をうかがい, さらに月経周期異常患者の I^{131} 攝取率を測定し, これを基準にして甲状腺製剤, あるいは抗甲状腺剤を投与して治療を行い興味ある結果をえたので報告する。

(I) 正常排卵性周期婦人について, 卵胞期20例, 黄体期15例, 月経期10例の I^{131} 攝取率を測定し, また同一人で排卵日と推定される日を中心にして前後数日間測定したが, いずれも甲状腺の周期性変化は認められぬ。また年齢別, 未産, 経産婦の間に I^{131} 攝取率の有意差は認められぬ。

(II) 正常排卵性周期35例の24時間値でみると, その分布の廣りは平均値20.79 %を中心にして $\pm 8.22\%$ である。便宜上12~30%を正常, 12%以下を低下, 30%以上を亢進として月経周期異常を分類すると, 無排卵性周期17例中, 低下7例(41.1%), 正常6例(35.3%), 亢進4例(23.5%)で續發性無月経32例中低下6例(18.7%), 正常15例(46.8%), 亢進11例(34.4%)である。無排卵性周期では低下例が多く, 續發性無月経では亢進, 正常例が多い。原發性無月経6例では低下1例, 正常2例, 亢進3例であった。

無月経期間, 肥満, 頸管粘液結晶形成現象と I^{131} 攝取率との間に特別な関係はみられぬ。

(III) 無排卵性周期, 續發性無月経患者について I^{131} 攝取率20%以下のものに乾燥甲状腺末を, 30%以上のものにメチルサイオニラシルを投与した。無排卵周期12例中5例(41.6%), 續發性無月経18例中6例(33.3%)に排卵誘導に成功した。

(IV) I^{131} 攝取率とステロイドホルモンの関係を去勢婦人についてみると, エストロゲンが攝取率の増加に寄

與する。

(V) その他 I^{131} 攝取率とB.B.T.の関係, 基礎体温上昇因子としての甲状腺機能, 不妊, 子宮發育不全症と I^{131} 攝取率との関係に言及したい。

75. 婦人科領域における温泉療法の研究

(岡山大温泉研) *田中良憲, 岡田俊郎,

石井 洸, 長谷川安正

我國には, 質, 量共に優秀な温泉が多数存在し, 年々多数の患者によつて利用されているが, 産婦人科的研究は殆んどなされておらず, 効果の有無, 作用機轉に關して満足すべき説明は與えられていない。われわれは性機能及び腹腔内慢性炎症に對する温泉浴の影響を臨牀的及び實驗的に追求し知見をえたので報告する。鳥取縣三朝温泉(放射能泉)を主に使用したが, 一部には別府温泉泥や食鹽水などの鹽類水溶液も用い, また結果には推計學的検討を加えた。

I. 性周期に及ぼす影響: 1)各種婦人科疾患による湯治客中その80%が湯治後一過性の月経周期變動を來した。不順が順調となつた例とその逆の例とが存在する。また雌ラッテに温泉浴を行うとその大部分に性周期の變動を來すが, 整調が不整となる例とその逆の例とがあり臨牀成績に似ている。食鹽水その他の鹽類水溶液に入浴せしめても性周期は變化するが, その鹽類の種類により多少様相を異にする。2)以上の現象の機轉をうかがうため内分泌學的檢索を行い, つぎの知見をえた。

エストロゲン注射によるラッテ子宮重量増加や向性腺ホルモン注射による卵巢重量増加は, 温泉浴による影響を受けないが, Hohlweg 現象や去勢による下垂體前葉の組織學的變化は, 温泉浴により著明に促進される。またラッテの間腦のアセチルコリン様物質とコリンエステラーゼは, 1回の温泉浴により増加する。これらは温泉浴が上位性中樞に強く作用することを意味している。

II. 腹腔内慢性炎症に及ぼす影響: 1)慢性附屬器炎や腸管癒着障礙などの患者に温泉浴または別府温泉泥の下腹部でん絡を行い, その80%に硬結や疼痛の減弱または消失を認めた。硬結や癒着の大なる例には無効のことが多く, また少數例では増悪を來した。2)ラッテの腹腔内に手術的にスポンセルの薄片を挿入して異物性炎症を起さしめ, その経過を病理組織學的に追求した。術後に温泉浴や別府温泉泥浴を續けた群では, 病そうにおいて組織球などの遊走細胞や線維細胞の出現が著明であり, スポンセルの吸収も促進される傾向が認められた。また同時に皮下結締組織の組織球の墨粒貪食能や中性赤超生染度